

# 在来工法仕様の金物工法発売

## サンクレテック



ワンスリットでボルトを使わず、在来工法と同じ「梁勝ち」で施工できる。

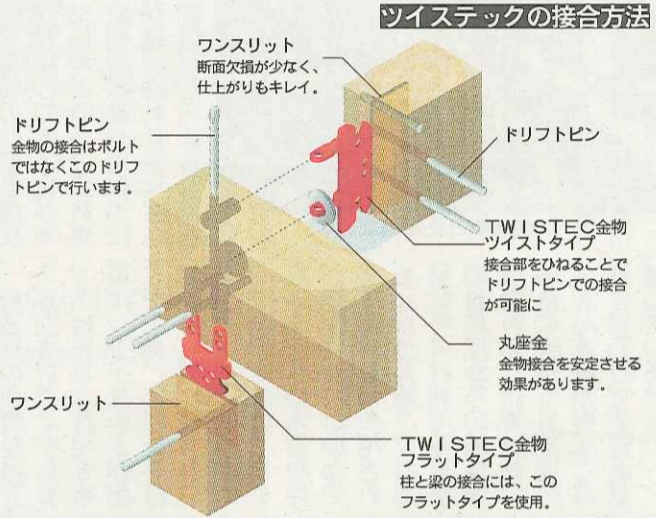
赤い塗装で革新性アピール  
新型の接合金物は「ツイステック」。

金物工法プレカットのサンクレテック（千葉県袖ヶ浦市、佐藤彰社長）は従来の金物工法とは異なる全く新しい概念の接合金物を発売した。エス・ジー・シー（茨城県結城郡、富田雪男社長）の「JSメタル」をベースに開発したオリジナル金物で、在来工法と同じ梁勝ち構造を基本に、ボルトを使わずドリフトピンだけで接合する。金物工法の普及でネックとなっていたコストや設計、施工の問題を解消することで、金物工法の利点を理解しながらも様々な理由で採用に踏み切れなかった層の需要を開拓する。

### 梁勝ち、ボルトレスで究極のピン接合

#### 在来に対抗できるコストも

チオン電着塗装を採り、外部への露出が少く、これまでの黒やシルバーとは異なる真っ赤な塗装を施した。金物の形状は接合部をひねったツイステックタイプ（梁・梁）とひねらないフラットタイプ（柱・梁）の2タイプを基本とする11種類。梁と梁の接合には直交する梁の上からドリフトピンで留め付けるツイストタイプ、柱と梁の接合には同一方向にピンを打ち込んで留め付けるフラットタイプを活用する。



えたことで、材料への印字がなくても取り付け間違いが起ころず、1個ずつ独立して取り付けるため、相互の干渉も気にせずに施工できる。

#### 自由度を実現

佐藤社長は「従来の金物工法は構造用集成材と柱勝ち構造を仕様化、マニュアル化したことで施工の合理化や寸法精度の向上を実現したが、強度試験を根拠にあまりにエンジニアード化しすぎてしまったために在来工法が持つ本来の自由度が失



真っ赤な塗装で革新性をアピール

ライン改造専ら月間50棟  
販売に先立ち、同社では横架材と羽柄材のプレカットラインを増設し、既設の横架材・柱材兼用ラインを新型金物専用ラインに改造した。加工能力は月産50棟。従来の金物工法（テックワンP2、P3、クレテック）は新設したラインで対応し、新型と従来金物の双方で生産拡大を目指す。

われ、融通が利かなくなっていた」と指摘する。「このためCADオペレーターはCAD入力の際に、大工は建て方の際に、その都度頭を切り替える必要があり、ビルダーや工務店によっては敬遠された要因になっていた」。ツイステックは仕口と継ぎ手を金物に置き換えるという金物工法の原点に立ち返りながらも、従来の金物工法の縛りをなくしたことで、



柱頭柱脚もワンスリット。柱の回転が防げるほか、横にずらせば交換も容易にできる

で、在来工法と同じようにCAD入力も建て方もできる。接合部耐力では従来の金物に及ばない点もあるが、在来仕口を十分に超える強度は確保しており、CAD

「在来工法」を進化させる、革新的接合金物

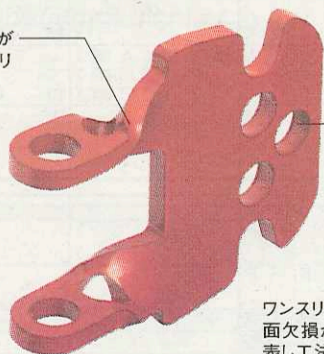
# TWISTEC

接合部をひねることで、上からドリフトピンで止めることが可能となりました。これにより、ボルトを一切使わない、ドリフトピンのみによる接合が可能となったのです。



TW-100

柱頭・柱脚や梁の継ぎ手などには、このフラットタイプを使用します。



TW-100T

ワンスリット羽としたことで、断面欠損が少なくなり、柱・梁の表し工法でも、キレイに仕上げることが可能になりました。

株式会社サンクレテック

一級建築士事務所 千葉県知事登録 第1-0607-6662号

http://www.sunkure.jp

本社 〒299-0268 千葉県袖ヶ浦市南袖45

TEL 0438-60-8418

北関東(営) 〒330-0802 さいたま市大宮区宮町3-11-4

TEL 048-641-6211